

かつては、「肥後のあか牛」の名で私たちに親しまれてきた肉用牛が、ネーミングも新たに肥後牛（肥後ビーフ）として、東京を中心に販路の拡大をめざしています。販路の拡大は、新しい需要を掘

でっかく育て！

新ブランド

り起します。これによって、畜産農家は安心して生産供給に励むことができ、農家経済は豊かになり、生活が安定します。

「熊本、明日へのシナリオ」の中にも示されている「足腰の強い農業」への第一歩ともいえます。

肥後牛は発育が早く、産肉能力が優れています。また、粗食に耐え、草の利用性が高く、体質強健で放牧に適していますから、生産コストや労力の面で農家は大変助かります。

「十勝ワイン」で有名な北海道池田町では、早くから肥後牛が活躍しています。「ワインにはステーキが合う」と肥後牛を導入し、町営牧場で繁殖・肥育して町営レストラン等で、年間六十万人を超える観光客に提供しています。

五十九年度だけでも、町民が収める税金の六倍に相当する三十億円近くを、この事業や土産品の販売などで稼ぎ出しています。

熊本県では、去る一月十日から三十一日まで、東京は銀座、日本橋のレストラングループ（八社二十九店）の協力を得て、肥後ビーフフェアを開きましたが、多くの方々から大変好評を得ました。これに意を強くしたレストラングループの方々が、ぜひ生産現場を見せて欲しい、生産者と販売者がお互いに知り合って共通理解を深めたいと、六月三日から五日まで本県を訪れました。この研究熱心な一行は、農家はもちろん、畜産試験場、流通センターなど盛りたくさんな施設を、寸暇を惜しんで、精力的に見て回りました。

生産者と販売者との心あたたまる交流によってお互いが啓発され、明日への活力のもとになったのではないのでしょうか。この研修旅行の三日間をスナップショットで追ってみました。

「肥後牛」



▶熊本県の熱意に動かされて、お手伝いすることになりました。（県からの感謝状を手に……レセプション会場で）



◀想像以上に衛生的な環境にびっくり。植木町・原田牧場にて。



◀能力の秀でた種雄牛の精液凍結保存。受精卵移植などのノウハウに熱心に聞き入る。



◀背幅が広く、背骨も水平で、ポリウムがあるもの程優秀なんです。



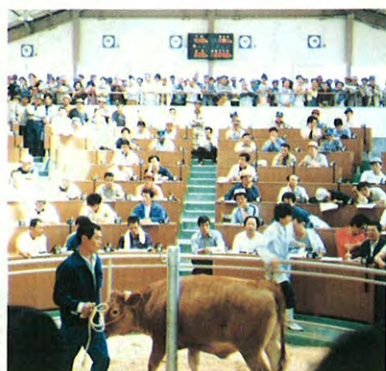
◀牛とて運動不足では、足腰が弱ります。このつり輪に牛の鼻をつなぐと機械が一定時間回ります。（強制運動機）



▶技肉（頭を背骨を中心に二等分した片方）をカット肉（部分肉）にする作業場。畜産流通センターで。



▶鹿央町の見学先の農家で振舞われた日本一のスイカに舌つづみ。桑原牧場にて。



▶初めて見るセリ市。生産農家の実情を見た後だけに、手塩にかけた子牛を手離す心情が身にしみる。



▶畜舎の壁に貼られた種雄牛の選抜方法と増殖サイクル、産肉能力の検定データの説明。



◀三九一ヘクタールの広大な牧場見学は、小型バスで……乾草収納作業が始まっている。畜産試験場阿蘇支場で。